

1 主 題 漂流ゴミのゆくえ

3-(2) 自然愛・動植物愛護	ESD：有限性	人権：主体的な態度の確立
-----------------	---------	--------------

2 本時のねらい

- (1) 環境問題に取り組む人の思いに迫り、環境問題で自分達にも取り組めることはないかという気持ちを高め合う。
- (2) ゴミをきちんと処理せずにポイ捨てすることで、生き物に大きな影響を与えていることに気づく。

3 本時を指導するにあたって

児童は、社会科でゴミ処理場の見学や、ゴミの学習を通して、どのような順序でゴミが処理されているのかを学習してきている。しかし、きちんと処理されなかったゴミやポイ捨てされたゴミが環境にどのような影響を与えているのかまではわかっていない。本時は、ゴミによる環境問題とその問題に取り組む人達の思いに迫ることで、自分達に何ができるのか考えさせていきたい。

4 準備・資料

- ・教師 テレビ、パソコン、フラッシュカード、ワークシート、イメージマップ、付箋
- 資料：インターネット記事「漂流ゴミのゆくえ」

出典（http://www.ecozzeria.jp/archive/news/2012/06/11/saezurikan_midway.html）

5 指導計画

段階 時間	学習活動	・留意点 [支 援] 評 価
つかむ 3分	1 一枚のゴミの写真を見て、それがどこから出てきたものかを予想する。	・ 何人かの児童に発表させた後、ゴミが死んでしまったアホウドリの雛のお腹の中から出てきたものであることを伝える。
	漂流ゴミの問題から考えよう	
考える 7分	2 事実を知って、思ったことや考えたことを発表する。 3 漂流ゴミの問題について知る。	・ 発表させた後、ゴミという言葉がキーワードになっていることに気づかせる。 ・ アホウドリの雛が漂流ゴミを誤飲してしまうという記事を読み、人間が海に捨てたゴミによって、生き物に影響を与えていることを知らせる。
		ゴミをきちんと処理しないと、生き物に大きな影響を与えてしまうことに気づく。（発言・観察）
高め合う 23分	4 漂流ゴミの問題に取り組んでいる人達の思いに迫る。 (1) 付箋に自分の考えを書き、学習班ごとにイメージマップを作成する。 (2) 発表する。 5 問題に取り組んでいる人達の思いを実現するためにどのような活動をしているのか考える。 (1) 付箋に考えを書き、イメージマップに加えていく。 (2) 発表する。	・ 漂流ゴミの問題について話をしている人達の写真を見せる。 ・ 漂流ゴミの問題に取り組んでいる人達がどのような思いで活動しているのか、イメージマップを用いて、学習班ごとに考えを整理させる。 ・ 必要に応じて、意見を区切ったり、似た意見をまとめたりする等、意見の整理の仕方を伝える。 [支] 意見が書けない児童には、対話を通して、問題に取り組む人達の立場に立たせて考えさせる。 ・ 児童の「何とかしたい」という発言を取り上げ、問題に取り組む人達の思いに迫れているか全体で確認し合う。 ・ 問題に取り組んでいる人達が、実際にどのような活動をしているのか考えさせる。 ・ 付箋の色を変えて、問題に取り組む人達の思いとのつながりが分かるように整理させる。
		自分にもできそうなことがないか考え、仲間同士気持ちを高め合うことができる。（シート・発表）
		・ 発表後、アホウドリと漂流ゴミの関係をテーマに講演会を開いたり、その記事をインターネットに掲載したりしている人達がいることを知らせる。
まとめる 12分	6 身近なゴミの問題を知る。 7 本時の内容をふり返り、感想を書く。	・ 校区内にある川や公園に落ちていたゴミを児童に見せ、身近な所にもゴミの問題があることに気づかせる。 ・ ワークシートに本時の感想を書かせ、発表させる。 ・ 今後、身近なゴミの問題について考えていくことを伝える。